

「ここは……？」
目が覚めると体が拘束されており
見知らぬ場所にいた

「っ……思い出せない……」

自らの格好が忍装束であることから戦闘の後だと推測できる
だが忍装束であるにも関わらず体に入らない……

「脱出は……今は無理そうですね」

それにしても異様な空間……

匂いから薬物の類が充満しているのでしょう
そのせいで私の力が入らない可能性が……

「なによりこの格好……」

体が壁にめり込むように拘束されており下半身は見えない
だが自らの姿勢は把握できる

「は、恥ずかしい……せめて脚の拘束だけでも……」

扉の開く音……背後から人の気配がする
私を捉えた者に違いない
一体何が目的でこのようなことを……

兎にも角にも今は情報が欲しかった

「何者！ いったい私に何をしたのですか？」



かすかに機械音がした
なにかが稼働したのだろう

「あの月閃のエリートである雪泉がいい格好だな……」
男の声……数は一人

「ひゃんっ！」
唐突にお尻を撫でられる
「なっ、何をするんですか！」

「なにがなんだかわからないって反応だな？」
今から自分の状況を教えてやるよ」

自身の目の前にあるモニタが稼働する
監視カメラの映像のようで小さな部屋が見渡せる
そこには壁から突き出した自らの下半身と男が立っていた



男が帯をめくり上げた
監視カメラの映像は男が死角になり
自らの下半身の状態が確認できない

だが自らの性器が露出していることはわかってしまう

「やっ……なにを……み、見ないでくださいっ!」

「いやらしいマ○コだ……」

ちゃんと準備できてるか確認してやらねえとな
まだ配属されたばかりみたいだしよ……」



男はお尻をまさぐりながら徐々に性器に手を移動させる
指が雪泉の恥丘をクニクニと弄り始めた

「やめっ……そんなところを弄らないでくださいっ!」

「おおっ……割れ目から蜜溢れてきやがる
堪らねえなあ……」

雪泉



恥丘をもみほぐし割れ目を軽くなぞる……
女体を知り尽くした指さばき

自慰の経験はあれどこのような多彩な刺激は経験したことがない

拘束され状況のわからぬ窮地でありながら
男の指に弄ばれ体が快楽を感じてしまう

「あっ……あっ……ダメ……そんなっ……」

必死に耐え忍ぶ……

男の指が割れ目にあてがわれ雪泉の恥部がこじ開けられる
ぱっくりと広げられた膣口からは
ドロリとした愛液とむせ返るメスの匂いがこぼれだす

「いい具合だ……こいつは最高の便器だ
使用感をみてやんねえとな」



突如監視カメラの映像が切り替わる
天井からの映像でどこか人ごとのような感覚で
壁から突き出した自らの下半身を眺めてしまう……

少しの間が空き男が映るとギンギンに反り返った肉棒が映り込む

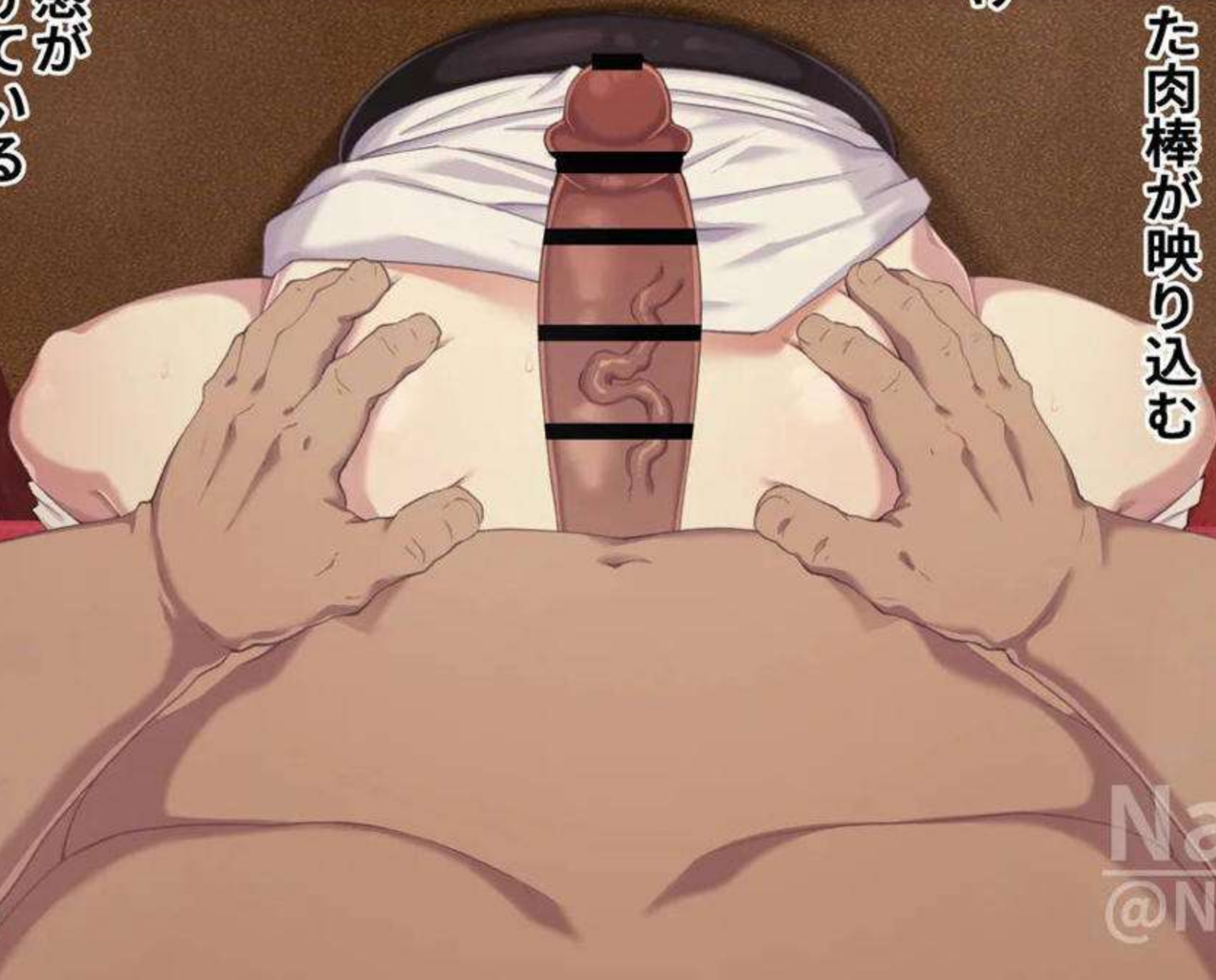
その光景に息を飲む
再び尻をまさぐると肉棒を割れ目にこすりつけ
愛液を絡めていく……



「あっ……ああっ……」

映像だけでは実感が薄い
だが下半身を感じる熱い感覚と言いつれぬ快感が
今まさに目にしている映像が本物であると告げている

今雪泉の性器に男性器がこすりつけられているのだ



「いい忘れてたけどな……ここはトイレなんだよ
そしてこいつは便器なんだよ」

ペチペチと主張するように雪泉の尻を叩き
監視カメラに向かい話しかけてくる

「ここはとある組織の施設……
そこにある高級性処理トイレだ」



「そして新たな便器が入荷したんだ……
それもうつも！
へへっ……あの黒影の孫だっとな……」

「あの黒影に恨みを持つものは多いから人気がでるぜ……
恨みを晴らす前に死んじまったみたいだが……
こんないいモノを残してくれるとはありがたいえ」



いっ、5つ……まさかみなさんも……

ここで目覚める前の記憶はあやふやで何も思いだせない……

考えてはいたが最悪の事態……仲間も同じように捕まっている可能性が高い

「おら……使ってやるからよく見とけ

今から俺のチ○ポが入ってくぞ」

雪泉の性器に男性器があてがわれる

カメラがズームすると同時にゆっくりと
雪泉の膣に入っていく

「嘘っ……い、いますぐおやめなさいっ！」

こ、拘束を解かないと……暴れるがびくともしない
忍装束だというのに未だに力が入らず戻る気配もない

それどころは最初より体は痺れどこか思考も鈍くなってきた……



「ゲツ振って誘ってんのか？
そんなに俺のチ○ポが待ちきれなかったか」

「今すぐ奥までっ……ぶち込んでやるからな！」

あぁっ……私の中に入っている……

下半身に突き刺さる異物感
焼けるような肉棒に意識がもってかれる

「すげえ……絡みついてきやがる
こいつは名器……いや名便器だな」

「いますぐ俺のチ○ポで気持ちよくしてやるからな」

「ぐっ……こんなもの……」

今は耐えなければ……

雪泉



奥まで挿入されるとゆっくりとピストンが開始される
悲しいほどスムーズに動き卑猥な音が聞こえてくる

「どうだ？俺のチ○ポは？」

「へへっ……彼氏でもいたか？」

「俺のチンポのほうに気持ちいいだろう？」

「こんな行為……気持ちいいわけがありませんっ……!!」

シノビの訓練で培われた精神力
自らを律し必死に耐え忍ぶ

このような経験がないためこれが快楽かは判別つかない
奥に突き入れるたび頭まで駆け抜ける衝撃に脳が痺れる

そんな耐える雪泉を嘲笑うかのように
モニタ横のメーターが光をともし
徐々に液体のようなものがせり上がっていた



横のモニターは拘束された雪泉を監視するもの……
脳の快楽物質が増えるとともにメーターは上昇する

そして感情の揺れに合わせ液体のように波打ち
絶頂すると発光する

どんなに強がろうと男には雪泉の感情が筒抜けとなる

「へへっ……ここがよさそうだ……」



チ○ポを突き入れるだけでもメーターは上昇するが発光しない
体は興奮しているが驚くことに強靱な意思で見事に雪泉は耐えきっていたのだ

だがそれも虚しく感情メーターと男のテクニクが合わさり
雪泉の弱点を見抜かれる……



男のチンポの動きが変わり小刻みに動き始める
執拗にただ一点に亀頭が押し付けられこすりつけられる

ビクン……雪泉より先に体が反応する……

鋼鉄の意思にヒビが入る……徐々に快楽が染み込んでくる

「うっ……♡あぁっ♡あっ……♡」

「へへっ当たりだ……今すぐイカせてやるからよ
そうすれば驚くように鳴くようになるんだ」

動きを変えてからメーターは波打ち光を灯す

永遠に感じられる長い時間耐えた……数時間だろうか……
男の攻勢から数分後……我慢は決壊する



「うっ♡あぁっ♡ダメ……♡ダメッ♡♡♡」

「くろっ……♡なんかっ♡きちやうっ♡♡♡」

耐え忍んだ反動……快感は一気に押し寄せ雪泉の意識を飲み込んだ
性に疎く自慰も必要以上に嗜んでこなかった
そんな雪泉の体に味わったことのない快樂が流れ込んだのだ



もう小手先のテクニックは必要ない……
獣のように雪泉の子宮めがけてチンポを突き入れる
瞬く間にメーターは満タンになり発光を強めていった

「いいぞ……！イケっ！」

俺も……子宮ににぶちまけてやるっ！」

「あっ♡死ぬっ♡これ以上はっ……死んでしましますっ♡♡」



「へへっ……最高だ！」

出すぞ……孕ませてやるっ！」

「黒影に殺された仲間の数だけお前に種付けしてやるっ！」

「そんなんっ……♡おおっ♡♡♡♡」



「黒影の罪は孫のお前が償うんだよ

あいつが殺した分だけ孕ませて産ませてやるからな！」

「そんなんっ♡♡♡♡おっ♡♡♡♡おっ♡♡♡♡」

「くるっ……！おお♡きちやうっ♡♡♡♡イクッ♡♡♡♡」



男が先に絶頂を迎える
雪泉の子宮に焼け付くような精液が流れ込んだ

男の射精がトドメとなり雪泉も絶頂を迎えてしまう
ビクビクと体は痙攣しその体に本物の快楽というものを刻まれてしまう……

一度知った快感は抗い難い……

金玉が空になるくらいの満足感
復讐の感情と共に吐き出された子種が雪泉の子宮を蹂躪する

精液を出し切ったチ○ポで念入りに精液を馴染ませるためにかき混ぜる

そしてゆっくりとチ○ポが引き抜かれた……

雪泉

パツクリと空いた膣口からドロリと精液が滴り落ちる……

「へへっ……いい眺めだ……これで一回目
黑影は俺の仲間を何人殺ったっけ？
十……二十……まあなんでもいいか……」

「また勃ってきちまったが時間だな……」



「また孕ませにきてやるから
俺以外のチ○ポで孕むんじゃねえぞ！」

「それじゃあ精液便女任務……頑張んな」

意識が朦朧とする雪泉を残し男は立ち去っていった……

雪泉



男の任務は便女の管理・清掃……
数時間後……再び雪泉の元を訪れる

「へへっ……これまたすごい……」

むせ返る精液の匂い
稼働して数時間で清掃が必要になる便女は稀だ

黒影に恨みを持つものは多い……
この言葉通り黒影の孫と教え子の噂を聞きつけ
大金が動いた

今日は大忙しだ……
さっきも四人の便女を片付けたばかりだからな……

こいつは特別だ……掃除した後また種付けしてやるう
下っ端であるが便女を使えるのはこの任務の役得である



雪泉



Na●SI
@Xa_si_M

雪泉



Na●SI
@x_a_s_i_m

雪泉



Na●SI
@x_a_s_i_m

雪泉



Na●SI
@xa_si_M

雪泉



雪泉



Na●SI
@xaxi_M

雪泉



雪泉



雪泉



雪泉



雪泉



雪泉



雪泉



NaOSI
@xaxi_M

雪泉



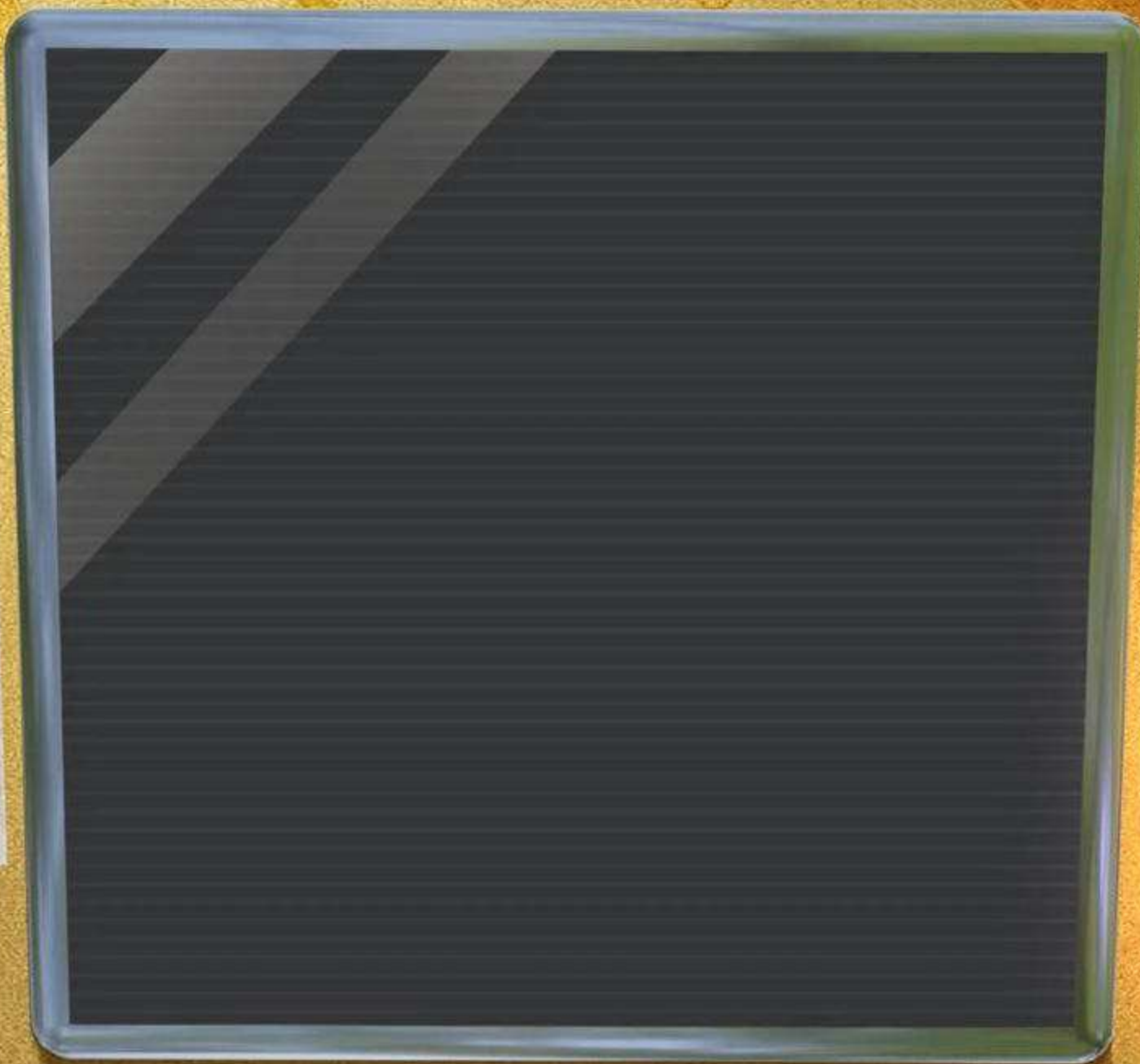
NaOSI
@xasi_M

~~豊~~ ~~子~~ ~~子~~



Na●SI
@x_a_s_i_M

~~重~~ ~~泉~~ ムン子



Na●SI
@x_a_s_i_m